

珍皇寺ちんくわうじは建仁寺けんんにんじの南松原通にあり。「六道と号す」本尊薬師仏てんけうは伝教大師でんけうの作にして、開基けいしは慶俊僧都けいゆんそうづ、中興ちゆうけいは弘法

大師。篁堂すゐだうには小野の、たかむら篁すゐの像むらを安置す。「此所より冥土へ通し道なりとぞ」焰魔堂えんまは東の方にあり、迎鐘むかひかねは七月九日十日

参詣さんぎの人此鐘このかねを撞つて聖靈せいりやうを迎むかひむるなり。六道ろくだう辻つち「本堂の前にあり」当寺とうじは久代そのかみへい平安城あんなじやうの葬所そうじよなり、桓武くわんむ天皇延暦十三

年に長岡ながのより此京このみやこにうつらせ給ふ時、此所このところを諸人しよじんの葬所そうじよに定め給ふ由、遷都せんたう記きに見えたり。又こゝを愛宕おたぎともいふなり。

〔源氏物語げんじものがたりに、桐壺きりつぼの更衣きりつぼを葬り、おたぎといふ所に其さまいかめしうしてと書るも、此所の事なり。河海抄かかいしょうには、弘

法大師こうぼうだいしの聖跡せいせきとして、東寺とうじの長者ちやうじやう官領くわんりやうしけるとかや。今は建仁寺けんんにんじの塔頭たつとうだい大昌院だいしやうゐんの兼帯所けんたいじよとなる〕

北斗堂ほくとだう、いにしへ六道ろくだうの東貳町許ひがしにあり、北辰ほくせんを祭りて柱はしらに高灯笼たかとうりやうをかけたたり、城南じやうなん淀川よどがはの回船運送かいせんうんそうの目当めあてに常夜灯じやうやとうを

かゝやかす。熊野くまのの謡曲うたに、北斗ほくとの星ほしの曇くもなきと諷ふうふは是なり、応仁おうえんの兵火へいかに亡ぶ。「一年とせ金森宗和かなもりそうわ江府かうふより上洛じやうらくの時、

清水寺しみずじに詣まゐりて、此灯笼このとうりやうの倒たふれて苔こけに埋うしを寺僧じそうに乞こうけ、吾妻ごまの奇物きぶつとして今いまに芝しばの御館ごくわんにあり〕